



# 癸気揚揚

第7号

令和5年残暑厳しい9月、4年ぶりの制限のない中で、文化祭を開催しました。一人一人の生徒がクラス、部活動、有志、実行員会などの団体に属し、その役割をもって協力することで、個々の生徒の総和以上の力となって発揮されていました。

校長として、あらためて生徒の若いエネルギーに感動し、この若い力を支える先生方へ感謝いたします。

私は、自分の高校生活と比べて、今の時代と何が違うのか、と問われた時、確かに、インターネットの普及、まさかの一人一台の電話、学び方も、スポーツの練習の仕方も、人の考えも、たくさん変わりましたが、高校生活で経験できることは、何一つ変わっていない、いや昔よりも、仲間や先生方と密接な関係性があると思いました。

昨年夏、甲子園大会を制した仙台育英高校野球部の監督は、試合後のインタビューで「コロナ禍での高校生活は、青春というすごく密な時間を過ごせず、あれもダメ、これもダメと言われ、再開しても、いつか止まってしまうような苦しい中でもあきらめないで頑張っている生徒は、うちの野球部だけじゃなくて、日本のすべての高校生がいてくれたおかげなんだと、全ての高校生の努力が大会を支えているんだと、全ての高校生に拍手してほしい」と発言し、感動を呼びました。

優勝したクラスや団体、吹奏楽部の演奏、ダンス部の演技、チアリーディングの舞台発表など、この文化祭を迎えるまで、コロナやインフルエンザの感染者が増え、こんなに練習したのに、準備したのに、本番当日を迎えられないかもしれないと、不安な日々もあったと思います。それでもこうして無事に文化祭を成功裏に終わることができたのは、この監督のことばの通り、本校のすべての生徒の努力があってこそと確信しています。

私は、校長として、あらためて、どんなことがあっても皆さんの密な青春を全力で支えていくことが大切だと決意しました。きっと皆さんの青春の1ページとして、しっかりと心に刻み込まれていることでしょう。

文化祭実行員会の委員長、生徒会の役員をはじめとした、各委員の皆さんの仲間を牽引する力、見事でした。この気持ちを胸に、また、明日から足立新田高校の生徒としての誇りをもって学校生活を送ってください。 令和5年10月 学校長

